



平成26年度 外国語活動・外国語研修会

平成26年8月12日（火）

実践発表 「高知市の子どもたちのためのオリジナルな Hi, friends! の授業づくりをめざして
～『Waku-Wakuアイデア 56-56ブック』の活用を通して～」

発表者 佃 由紀子 教諭（一宮小）、上岡 真理 教諭（三里中）、竹崎 優子 教頭（旭中）

「外国語活動の実施において困っていること」（外国語活動に関するアンケート結果から）

- ・ ゲーム的な活動から、コミュニケーション活動や表現活動にどのようにつなげるか？
- ・ 授業の効果的な進め方は？
- ・ 中学校との連携はどうすればいい？ 中学校では、どんな英語の授業をしているの？



 成果物	1 単元構成の工夫 めざす児童の姿に向け、単元のゴール（児童が思わず聞きたくなる、言いたくなる場）を設定する。	2 活動の工夫 「わくわくチャレンジポイント」の設定 (1) 自分とのかかわりをもたせる。 (2) インフォメーション・ギャップをつくる。 (3) 自己選択・自己決定の場をつくる。	3 「わくわくチャンツ」の紹介 (1) 追っかけバージョン リズムに合わせて、楽しみながら使用表現に親しむチャンツ (2) 反応バージョン コミュニケーション（意思疎通受け答え）を意識したチャンツ
---	---	---	---

オリジナルは、
小中連携で最強に！

外国語活動から
英語科の授業へのゆる
やかな移行を！

小中連携の
楽しさ・素晴らしさ
を体感！

成果物は高知市立学校
教職員用ポータルサイト
(<http://gwsv4/intra/2017/school/index.htm>) に掲載



研修Ⅰ【講話】「小学校外国語活動の成果と課題、そして、これから」

講師

文部科学省初等中等教育局教育課程課

直山

木綿子

教科調査官

新たな英語教育

現行の学習指導要領 による英語教育

【高等学校】

- 授業は英語で行うことを基本とする
- 目標：コミュニケーション能力を養う
(英検準2級～2級程度等)

【中学校】

- 4技能の総合的育成
- 目標：コミュニケーション能力の基礎を養う
(英検3級程度等)

【小学校高学年】

- 活動型
- 学級担任を中心に指導
- 目標：コミュニケーションの素地を養う

【高等学校】

- 授業を英語で行うとともに言語活動を高度化（発表、討論、交渉等）
- 目標：英語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う
(英検2級～準1級程度等)

【中学校】

- 授業は英語で行うことを基本とし、内容に踏み込んだ言語活動を重視
- 目標：身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養う
(英検3級～準2級程度等)

【小学校高学年】

- 教科型
- 専科教員の積極的活用
- 目標：読むことや書くことも含めた初歩的な英語の運用能力を養う

【小学校中学年】

- 活動型
- 学級担任を中心に指導
- 目標：英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験することで、コミュニケーション能力の素地を養う



【直山教科調査官から】

- ・ 今までの外国語活動の成果と課題を踏まえた改革であり、今の外国語活動の充実がまず先にある。
- ・ 今回の実施計画において、小学校の改革ばかりが目立っているが、求められる英語力をもつ教員や生徒の割合がなかなか伸びない中、中・高等学校の先生方の指導力向上も課題。
- ・ 今回の実施計画はあくまでも案である。英語の技能を身につけるためだけの授業ではなく、言葉を大切にしたい、豊かにコミュニケーションできる力を養う授業を行うことが大切である！

グローバル化に対応した英語教育の目標・内容等(案)

研修Ⅱ【演習】「学校の特色を生かしたオリジナルな Hi, friends! の授業づくりをめざして
～子どもたちの聞きたい、言いたい、知りたいを大切にしたいコミュニケーション活動を考える～」

内容 学校の特色を生かしたオリジナルな Hi, friends! の授業となるよう、単元計画及び単元のゴール
のコミュニケーション活動を作成する。

意見交流



単元計画・学習指導案の作成



模擬授業



模擬授業について意見交流



【グループの成果物①】

Hi, friends! 1 Lesson 5 における単元名

“What do you like?”
「友だちにインタビューしよう」

わくわくチャ
レンジポイントを加
えると…

再構成

「オリジナルなHi, friends!」における単元名

「オリジナルフラッグを作ろう」

わくわくチャレンジポイント（児童が思わず聞きたくなる言いたくなる場の設定）

- 「クラスのオリジナルの旗を作ろう」という必然的な活動のめあてをもたせる
ことにより、意欲的に学習できるようにする。

第一
段階
班ごとに “What color do
you like?”, “What shape do
you like?” などの表現を使って、
旗の色や形を決めていく。

第二
段階
“What flag do you like?”
の表現を使って、どの班のデザ
インがよいのかを、理由をつけ
て選ぶ。



【グループの成果物②】

Hi, friends! 2 Lesson 5 における単元名

“Let’s go to Italy.”
「友だちを旅行にさそおう」

わくわくチャ
レンジポイントを加
えると…

再構成

「オリジナルなHi, friends!」における単元名

「わくわく世界旅行に出かけよう」

わくわくチャレンジポイント（児童が思わず聞きたくなる言いたくなる場の設定）

- 思わず “Yes, let’s.” と言ってもらえるような紹介
おすすめの国を紹介することで、意欲的に楽しく活動することがねらい
- 自ら選び、決める楽しさのある活動
興味をもった国について調べ、紹介する工夫をすることがねらい
- 友だちの発表にあいづちを打つなどの反応
関わりをもたせ、コミュニケーションの楽しさを味わわせることがねらい



【直山教科調査官によるまとめ】

- ・ 中学校教員の約8割が、小学校外国語活動導入前と比べ、生徒が変容したと感じている。生徒が相手のことを聞いてあいづちを打つなど、態度面が養われており、英語を聞く力・話す力も高まっていると感じている。
- ・ 小学校から中学校への接続期の指導として気をつけたいこと
(中学校の先生へ) ①音声から文字への丁寧な指導 (中学校1年生の初期段階で、英語の単語をビジュアルとしてとらえる機会を多く設定する必要がある) ②正確さ・適切さの指導 ③即興的に話す・読む・書く活動の実施
(小学校の先生へ) ①学校としての体制づくり。5・6年生の担任まかせにしない。②教科化といえども、中学校の英語教育の前倒しではない。散発的な体験ではなく、段階的に積み上げていき、体系的に学ぶということ。

【受講者の感想】

- ・ ゴールをイメージした発表で、大変分かりやすかった。授業を組み立てるときに、子どもにとって必然性のある活動を考えることの大切さを学んだ。授業の中で、子どものわくわく感を大切にしたい。
- ・ みんなで一つのものを作り出すのは楽しい、ということを感じた。この感覚を校内の教員とも分かち合い、子どもたちにもさまざまな場面で感じてほしいと思った。
- ・ 英語の教科化について、とても不安と抵抗を感じていたが、今まで行ってきたことの延長にあること、これまでの実践が否定されるものではないと分かり、少し安心した。